

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社ベネッセホールディングス（証券コード:9783）**【据置】**

長期発行体格付	A+
格付の見通し	安定的
債券格付	A+

■格付事由

- 企業理念「Benesse（よく生きる）」に基づき、幅広い世代に向けて事業を手掛ける企業グループの持株会社。国内教育と介護・保育が事業の2本柱である。グループの経営の一体性は強く、格付にはグループ全体の信用力を反映させている。国内教育では、通信教育講座「進研ゼミ」や学習塾、英語教室を展開するほか、「進研模試」や学校への「ICT サポート」、大学・社会人向けの事業も行う。介護・保育は、中高価格帯中心に22年9月末で348の有料老人ホームを運営し、業界大手の地位にある。
- 業績は底堅く推移している。有料老人ホームや中国の通信教育でコロナ禍の悪影響が生じているものの、各事業の事業基盤は保たれている。国内教育では進研ゼミや学校向け教育、学習塾などが比較的バランスよく利益を確保している。22年には赤字体質であった語学教育の「ベルリッツ」の売却が完了したこともあり、当面、一定程度のキャッシュフローを確保できると想定される。また、財務体質は健全で、安定した財務基盤が維持されている。以上により、格付を据え置きとし、見通しを安定的とした。
- 23/3期の会社計画の営業利益は215億円（前期比6.6%増）である。国内教育の大学・社会人向けなどの伸長やベルリッツの営業赤字の消失が、有料老人ホームの入居率低下などの影響を補う見通しである。足元、進研ゼミの会員数は減少しているが、費用対効果を重視した販売活動やプログラミングなどのオプション講座の拡大を通じ、収益力の強化を図っている。また、有料老人ホームの競争力は維持されているとみられ、コロナ禍の感染状況が落ち着けば、入居率は回復に向かい、業績貢献度も再び高まる公算が大きい。
- 前受金型のビジネスを主としており、運転資金負担は軽く、手元資金には厚みがある。23/3期第2四半期末の自己資本比率は29.9%（22/3期末27.6%）。自己資本比率は、リース債務の増加などから長期にわたり低下傾向にあったが、22/3期末を底として緩やかに回復していく可能性が高いと考えられる。収益力の向上やベルリッツ売却による税金削減効果が寄与するためである。有料老人ホームの施設数増に伴い、リース債務は今後も増えると想定されるが、施設運営に問題は生じておらず、投資回収に懸念はない。

（担当）殿村 成信・佐藤 洋介

■格付対象

発行体：株式会社ベネッセホールディングス

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A+	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第1回無担保社債（特定社債間限定同順位特約付）	50億円	2020年12月15日	2025年12月15日	0.160%	A+
第2回無担保社債（特定社債間限定同順位特約付）	50億円	2020年12月15日	2030年12月13日	0.340%	A+

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2023年1月12日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：窪田 幹也
主任格付アナリスト：殿村 成信
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「国内事業法人・純粋持株会社に対する格付けの視点」(2003年7月1日)、「持株会社の格付方法」(2015年1月26日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社ベネッセホールディングス
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいで行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル